

透析困難症患者に積層型 AN69 膜を使用した経験

杏林大学医学部附属病院 腎・透析センター

○結城遼太 山田裕信 鈴木裕子、軽部美穂 要 伸也

【目的】

低栄養状態の透析困難症に対して腎移植に向け全身状態の改善を目的とし、CTA 膜から AN69 膜へ変更した 1 症例を報告する。

【症例】

44 歳 女性 SLE。

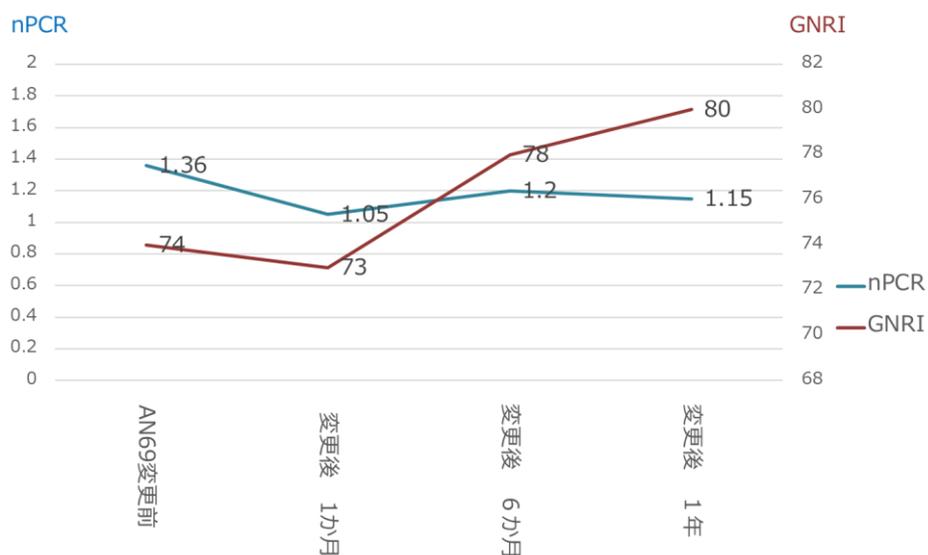
2014 年 4 月透析導入し、2015 年 1 月頃より腹痛によるトイレ離脱の訴えあり。2015 年 10 月頃より透析一時離脱回数が頻回となった。透析困難に対し PS 膜→EVAL 膜→CTA 膜へと変更を試み、離脱回数は減少したが低栄養状態は改善しなかった。2016 年 5 月透析困難、栄養状態改善を目的とし AN69 膜へ変更した。

AN69 膜変更前後でのデータの比較

	Hb	UN	TP	Alb	BNP	DW
AN69膜 変更前	10.9	96.2	5.6	3.0	2706.1	31.6
変更 1か月後	9.2	70.8	5.6	3.4	428.6	32.3
変更 1年後	13.5	84.2	5.8	3.7	113.3	36.1

AN69 膜変更後、透析一時離脱回数は完全に消失しなかったが、透析日平均で 0.385 回→0.236 回へ減少した。本人の自覚的にも腹痛の程度の軽減が認められた。Hb10.9→13.5g/dL、アルブミン 3.0→3.7g/dL、BNP2706.1→113.3pg/mL、DW31.6→36.1kg と全身状態は徐々に改善がみられた。

nPCRとGNRIの推移



nPCRの変化は認められなかったが、GNRIは1か月经過で73、6か月後78、1年後80と徐々に改善を認めた。

【まとめと考察】

AN69膜使用により腹痛の程度が軽減し、トイレ離脱回数が減少した。これにより十分な透析と除水が可能になり、DWの増加と栄養状態の改善につながった。AN69膜への変更が有用であった理由は不明であるが、AN69膜の特徴である末梢循環改善により腸の虚血が改善され、アルブミン漏出も軽減したこと、慢性炎症の低減によりアルブミン合成が高まったこと、などが可能性として考えられる。

【結語】

低栄養状態、透析困難症に対しAN69膜が有用である可能性がある。